

一般入学試験（前期日程：2科目型）

全学部

英語

(P.1)

【出題の意図・ねらい】

①は動詞句を中心として、ほぼ同じ意味の語句を選択する形式の問題です。出題されている問題は、いずれも基礎的なものです。②は基本的な文法および語法を問う問題です。①と同様に基礎的な問題が中心となっており、受験者に基礎力が確実に身につけているかを確認するための問題です。③は単語の並べ替えによる英作文の問題です。正確な英文の構成力が問われる問題です。④は文章を並び替える整序問題です。文の流れをしっかりと理解できているかどうかを問う問題となっています。⑤は会話の文章問題です。会話の流れや内容を確実に把握できているかがポイントとなります。⑥は長文読解の問題です。設問は多岐にわたっていますが、主として文法と内容の把握に関する設問が出題されています。

【採点結果からの感想】

全体的にみると正答率は、ほぼ5～6割前後となっていますが、他の設問と比べて、内容を把握する設問での正答率があまり良くありません。日頃から英文を読み、内容をきちんと把握するような練習をする必要があると思われます。

【これからの学習の指針】

①や②の形式の問題はできるだけ多くの問題を解き習熟することで、確実に点数を伸ばせるので、しっかりと正答を導き出せるように練習しておくことが大切です。長文や会話文の設問にあった内容把握の問題は日頃から単に演習問題をやるだけでなく、問題文の内容を自分でまとめるような練習をすることが効果があるかと思えます。

国語

(P.6)

㊦は、自然科学系と社会科学系の学部に入学した場合に、㊦と古文㊦は人文系系の学部に入学した場合に、現代文㊦は社会科学系の学部に入学した場合に、多く読むことになる類の文章である。

㊦の選択問題において古文を解答した割合は、1割弱でした。平均点は、古文を選択した方が8点低かったです。現代文よりも古文の問題の方が難しかったようです。

合否基準点は、その難易度の差を勘案して決定しています。

㊦と現代文㊦の双方とも最初の問題は、二字熟語のうち一字について問う同形式の問題です。日本語文章中には、二字熟語が頻出します。それらの意味と読みと書き取りに日頃から注目してもらいたいと思います。

さて、㊦で特記すべきことは、問二の接続詞を選ぶ問題への正答率が低かったことです。とりわけCについて（解答番号8）の正答率は3%と極めて低かったです。

接続詞は、日本文で多用するとうるさい感じになり、美しくなくなりますが、前の文章と後の文章の間の論理的関係を明確に表示するものとして、大切な品詞です。そうした論理的関係を明確に意識せずに、思いつくままに文章を並べただけのよう

な文を書く学生が近年増えています。接続詞を取って省いて作文する場合でも、前後がどのような論理的関係にあるのか、接続詞を用いるとすれば何が適切か、常に意識的であって欲しいです。

Cは、「すなわち」が入ります。「すなわち」という接続詞は、前の文で問題化されたもの・ことの全体を言い変えて説明する場合に使われます。それに対して、「たとえば」は、前の文で問題化されたもの・ことの一部を例として表示する場合に使われます。たとえば、前で一般論が述べられていて、後にその具体例をいくつか示すというような場合です。

㊦の問六も正答率が低かったです。本文での例にならってローマ字で考えてみれば、裏拍の位置にある母音と子音それぞれについての重なりが数値としても見えてきます。

現代文の㊦は、近年の若年者の雇用について書かれた中身を理解して考えれば、比較的平易な問題です。

古文の㊦は、設問自体はオーソドックスなものでしたが、登場人物が多く、書かれている内容も日常的でない椿事と言えるものであり、読み取りが難しかったと思われます。

数学（I・A）

(P.12)

【出題の意図・ねらい】

経済学部に入学後、学ぶときに必要となる計算力、数学の基礎知識、数学的思考を習得しているのかを確かめることが出題の意図です。つまり、数学I・Aの基礎知識をしっかりと身につけているか、そしてその知識を応用できる力を身につけているのかを見ることをねらいとしています。

①は、数と式、二次方程式の定数と解、図形と計量に関する基本的な問題です。②は、三角関数を含んだ方程式に関する基本的な問題です。教科書の基本的な内容を理解しているならば、問題文をよく読めば、①と②ともに易しい問題であることに気づくはずで、③は、問題をよく読んで、上手く場合分けをすれば、難しくはありません。問1と問2は簡単に解けるはずで、問3と問4は、回転して一致する場合は同じと考えるとはどういうことかを、問1と問2の場合と比べて考えると、解く方法が見えてきます。問5と問6は問1と問3と比べて一色多くした場合に関する同じ問題です。少し場合分けが面倒になりますが、原理的には解く方法は同じです。

【採点結果からの感想】

平均点は58点台でちょうどよい出題内容だったと思います。基礎的な内容を問う①と②の正答率は比較的よいものでした。しかし、③は正答率があまり高くありませんでした。したがって、①と②の基本問題をどれだけ確実に正答したかで点数の差が決まる試験でした。それから、②の問4の正答率が低いのは意外でした。解き方自体は、二次方程式に帰着して考えれば非常に標準的なはずですが、最後に三角関数に戻って考えるということで、迷ってしまったのかもしれない。

【これからの学習の指針】

出題は非常に基本的なものばかりです。まずは、教科書の基

本内容を確実に習得しましょう。それには基本的な内容の理解を確認する練習問題を多く解き、それを反復することによって、問題を解く定石や公式をしっかりと身につけましょう。応用力を確かめる問題に対しては、問題文を注意深く読み、問題の内容をよく理解することがまず大事です。そして、内容が理解できれば、その中に教科書に出てくる基礎知識を応用して解くことができる「鍵となる事実・関係」を気付かせるヒントが必ずありますからそれに気付いて下さい。そのためには、問題の内容の中で複雑そうに見えるものは（場合分けなどして）きちんと整理して明確にしてから考えるとよいでしょう。（実際、今年の試験問題も、このような応用問題が解けるかどうかで点数の違いとなって現れています。）それから、応用問題を解くときでも計算を正確にできるように練習しましょう。せっかく解き方がわかっていても計算間違いで得点できないのはもったいないことです。